比喩表現を通して文学を読む楽しさを学ぶ

Discovering the Pleasure of Reading Literature by appreciating Metaphor and Simile

文学を味わって読むことは上級日本語学習者にとって、文法、語彙、漢字などを何年かに渡り学んできた、いわば長年の努力に対する報労である。本稿では日本語上級 II の春学期に試みた比喩表現に焦点を置いた授業を紹介する。

村上春樹の比喩表現が多くの論文の対象になっていることからも分かるように、村上の作品は非常に比喩表現富んでいる。そこで、日本の高校の国語の教科書にも採用されている村上の「七番目の男」を 4 年生レベルの日本語の読み教材に選択した。第一日目の授業では、比喩表現とその効果についての授業を行い、「七番目の男」を読む目的を明確にした。最初の授業では、音読、意味の解釈、特に比喩表現の解釈とその効果について学生に質問する形をとった。学生が物語の進展に対する興味が強まるにしたがい、読みも深くなり、自分の解釈にも自信がついていき、解釈も深まっていく過程が観察された。これは、教える側にとっても手応えがある授業であった。本稿では学生の比喩表現の解釈、「七番目の男」の読後感想も含め、比喩表現に焦点を置いた授業の考察を述べる。

[参考文献]

牧野成一（2013）『村上春樹の日本語はなぜ面白いのか---文体を中心に--- 』国際教養大学 特別講演

米村 みゆき （2009） 『村上春樹『七番目の男』 -アニメーション制作のケース・スタディ』専修国文 (85), 153-185

佐藤洋一、常原拓（200６）『現代小説教材における「国語科学習・評価システム」の開発 : 村上春樹「七番目の男」の授業モデルを例に』愛知教育大学研究報告. 教育科学 55, 127-136

松井香奈 （2017）『村上春樹「七番目の男」論 : <風景画>の拡大 』福島大学国語教育文化学会, 31-40